

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ  
 テーマ：自然(花・虫)

＜テーマの設定理由＞  
 (テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)  
 ・活動の中で春探しをし園庭に咲いている花に関心を示し楽しんでいました。また、身近なダンゴムシやミミズを採集しをすまから自然の方向で設定しました。

2. 活動スケジュール  
 春→テーマ探し ・ひまわりの種をまく ・さなぎの観察(てんとう虫、カマキリ、オタマジャクシ)  
 夏→準備づくり ・虫がここの苗木を植える ・オタマジャクシの生態を知る ・ひまわりの開花、観察、絵  
 秋→収穫 ・採集した虫の観察 ・虫の卵がさすの観察を兼ねる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定  
 (活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)  
 花の苗や木 プランター 虫かご 白のテールクロス  
 iPad マイクホーステープ  
 ・虫が好むミカンや、マリーゴールドの苗を外部の指導員を招き植え方や虫が好む木、花の話しを聞いた。その後は園庭で毎日観察出来るようにした。  
 ・プランターに、外観や色を認定し、いつでも子ども達が観察出来るよう、また子ども達が植えた虫が立派になるようにした。

4. 探究活動の実践  
 <活動の内容>  
 花→「ひまわりって何」という子ども達の疑問から、今知っているひまわりの絵を描きその後ひまわりの種を植えた。その後観察しながら子ども達が疑問に思う事をiPadで調べながら進んでひまわりとさなぎが育ちました。植えた後はスコップを使って土を観察を行ったあと子ども達の探求は続いている。  
 虫→お散歩でみつけた種を持ち帰り、何が生まれてくるか観察を行った。観察の中でほかの種も観たいという子ども達の声から、ワークショップをお願いし虫が集まる場所を調べました。虫かごの作り方を伝えた。  
 <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>  
 (活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)  
 子ども達の身近なテーマだったため子ども達は自分たちで名前を調べていた。保育者は子ども達の声をより多く聞き、子ども達が観察しやすい環境を作った。また興味があるように観察にも参加した。  
 5. 振り返り  
 <振り返りによって得た先生の気づき>  
 ・ひまわりを育てる活動は開花だけで終わらず、植えた後も成長をみつけ喜びを感じたいという声が生れた。育てる事は次につながる事だと体験を通し子ども達は感じた事もあった。  
 ・構想会に参加しテーマを1本化するアドバイスを受け、より明確となり活動しやすくなった。  
 ・テーマ以外にも子ども達の疑問や関心が止まらないので、子ども達の声も聞いていきたい。



とうきょうすくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ  
 テーマ：音

＜テーマの設定理由＞  
 (テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)  
 ・初めてすくわくプログラムに取り組み子ども達はどんな事に興味があるのか見ていく中で園庭遊び中、小石や木の葉の音をカップに入れて揺らし、音のおもしろさや音の違いに気づく姿が見られ、その後も「なんで音が違うのか?」という疑問がうまれ音の違いや、音探しが始まりました。

2. 活動スケジュール  
 1. 音の気づき(5月～) 7. マラカス作り  
 2. 音探し散歩 8. 楽器の中(ピアノ調律) (9月～)  
 3. 音比べ(透明ボトルに自然物をいれ音試しをする。) 10. チェロ四重奏(10月～)  
 4. 音遊び絵(7月～) 11. ハードコール作り(2月～)  
 5. マラカスネット作り 12. 音比べ (3月～)  
 6. 音の日記表(8月～)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定  
 (活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)  
 透明ボトル ハードコール マラカス マラカス製作キット カスタネット製作キット  
 紙筒  
 ・大きな楽器の中も見てみたいという子ども達の声から、ピアノ調律を頼み中を説明とともに見せてもらった。  
 ・いくつかの楽器が合わさると音はどう変化するか、また耳から聞こえる音だけなのか身体に感じられる音があるかを言葉の力を借りた。

4. 探究活動の実践  
 <活動の内容>  
 子ども達の音の気づきから、音探しを始めた。子ども達の気づきや発見を目に見える形にし、透明ボトルに自然物をいれ音比べを行った。ボトルで音を鳴らしている「マラカスみたい。」という声があり、そこからマラカスを作った。楽器を作ったり、鳴らしたりする事で子ども達の探求が始まり、聴く事だけでなく、身体で感じる音、絵で表現する音などもあった。外部から演奏者や調律師もよび本物に触れる機会もあった。  
 <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>  
 (活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)  
 自ら考え、実行確認して試す姿や自分の発見を友だちや保育者に伝え共有していた。始めは決まった音の発見を待たなかったが、他の試みの中でマラカス音が気になった音を探るようになった。  
 5. 振り返り  
 <振り返りによって得た先生の気づき>  
 すくわくの活動を通して、子どもの興味関心を広げることができた。子ども自身が考えたり、試す経験も増え、自分の意見や考え、発見を積極的に伝える力も育っていった。また、創造する機会も多く取り入れたので、創造を絵にししたり、言葉で表す事もできるようになった。保育者も子ども達と関わって色々な発見や、子どもに教わる事も楽しかったことともに喜びとなった。

